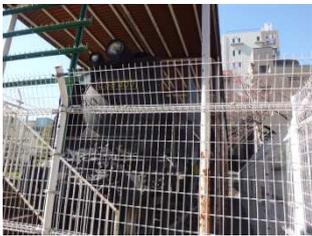


第12回御府内八十八ヶ所霊場めぐり

第三日 大塚公園—田端駅前まで

日時 平成27年3月25日(水) 午前9時 晴れ
場所 大塚台公園
主催 東京都ウォーキング協会 参加人員75名
距離 17キロ 参加費500円 歩数22774歩
スタート 9時15分 ゴール午後1時半
状況 ラッシュタイムの中で大塚駅に着く。早いのでスターバックスで眠気さましのコーヒーを飲む。大塚台の公園のサクラも一分咲き程度であった。北海道から運ばれてきた電気機関車が公園の隅に鎮座している。再びSLブームの時が訪れており陽の目を見る日も近いであろう。サクラの花に送られ公園を出る。都電の線路を横切り大塚3丁目の



大塚台公園のデコイチ



集まる人々



79番専教院

交差点を目指した。時間帯が9時台であるためか人の動きが多く激しい。御茶ノ水女子大学前を通り新大塚公園の裏手にある79番札所専教院へ行く。普通の家で3階建の2階が本堂である。清水山灌頂寺と号す。良法法印が開基された。延寶9年(1681)創建の新義真言宗豊山派の寺院である。江戸名所図絵によると法仙寺の末寺で大師堂は東向にて瓦葺素木造り本堂はなく大師堂に続き庫理ありと書かれている。文政の頃には境内の敷地380坪あったそうだ。天明のころに四国八十八ヶ所の内讃岐の国西ノ庄崇徳院天王寺第79番札所を移し御府内に組み入れたという。しかしいつ来ても寺らしいさを感じられない寺院である。隣のビルと空中廊下でつながり部屋賃をしているようだ。ここから小日向を通り地下鉄丸ノ内線のガードをくぐる。文京区も坂の多い町である。坂を下ったためガードを抜けると長い階段が待っていた。春日通りに入り文京区役所の方向へ向かう。茗荷谷駅は通過し、小石川中学校の立派な建物を見ながら南へ向かった。小石川2丁目交差点を右に入る。86番札所常泉院に到着した。ここで読経を始める。大塚会長がこの辺は明るく北野天神を教えて頂く。警視庁第5本部の建物裏側に北野天神社があった。牛天神北野神社は寿永元年(1182)の春に、源頼朝が東征の際に船をこの台地の松に繋ぎ止めまどろんでいる時に牛車に乗った菅原道真が現れ、二つの幸福を授けると御神托を受けた。その一つが同年秋に嫡子頼家が誕生した。翌年には壇ノ浦で平家を滅亡させた。



86 番札所常泉寺



北野神社本殿



北野神社境内の牛天神

これにより元暦元年〔1184〕に頼朝によって北野神社が創建された。また別名この神社は太田神社とも言われた。創設不明だが世の人は貧乏神と呼んだり、人望神とも呼んだ神社であった。このいわれは黒闇天女（弁財天の姉）を祀った神社がある。昔小石川の三百坂に幕臣旗下の太田土某がいた。家中にこれという不幸はなかったが（吾は貧乏神で多年に到りこの家に住んできた。もし今から3日の内に赤飯、油揚げを供えれば福德を授けようのご神托がありその通りにするとこの家に慶福が続き裕福になったという。士某氏は大変喜び像を彫刻して牛天神として奉納した。その後一人の大工が幕府の仕事を請け負った。大工は祭神に祈り、願いが成就すれば神殿を奉納すると約束した。これによって請負仕事もうまくいき大工は約束通り新しい祠を作り神像を遷座させた。近隣の人々は貧乏神が人望神と呼んだと尊宗された。いろいろ言い伝えの多い神社であった。

神社は崖の上であり下は谷底のようだ。今から800年前はここまで海であったのである。再び常泉院に戻る。丁度般若心経も終わり出発するところであった。再び元来た道を戻り春日通りを歩く。中央大学理工学部前を通り、東京都戦没者霊苑に着く。ここでトイレ休憩である。一段高い所に南向きに鎮魂碑がある。霊苑は昭和35年に建立された。



東京都戦没者霊苑鎮魂碑



追悼文山本健吉



回廊



東京ドーム

この土地は元は水戸藩上屋敷の一部であった。その後は陸軍砲兵廠諸工伝習所の敷地となった。今は財団法人東京都慰霊協会が管理して昭和28年戦没者慰霊施設として東京都に寄付された。昭和56年には遺品室が完成した。16万人の陸海空の戦死者の慰霊を安置している。これは東京都霊苑でありこの他千鳥ヶ淵には戦没者墓苑、靖国神社には戦死者が神として奉納されている。何故三ヶ所に慰霊塔が作られるのか非常な矛盾を感じる。この建物も宝くじ協会からの寄贈となると日本政府は何を考えているのか疑問を感じる。慰霊碑は鎮魂と書かれ当時の東京都知事鈴木俊一郎の名前で書かれる。この他山本健吉の追悼文平和への願い

を込めて御影石に刻まれている。東京都民の戦死者16万人の遺族の願いで施設は出来たが参詣する人は少なくこれが所在することすら知らない世代が増えている。回廊を巡り歩き今日本は安倍首相により再びアメリカの言いなりの戦争参加の自衛隊を派遣する、憲法を変える方向で戦争への道を歩むように感じられる。休憩をしながら考えさせられた大都会の一隅であった。。

ここを出て後楽園駅の中を素通りして東京ドームの階段を上る。東京ドームのテラスを歩いて壱岐坂を上る。ここは彦坂壱岐守屋敷がありその名がついたという。壱岐坂は御弓町へ昇る坂である。元和元年〔1615-1623〕の本郷図を見るとこの坂の右方に小笠原壱岐守（唐津大名6万石）の下屋敷がありこれから壱岐坂という説もある。距離は268m高低差13.35mである。坂はきつい。息をフーフー言いながら一番最後に登りきった。東京都水道歴史館に向かった。その手前に34番札所三念寺へ参る。鉄筋4階建ての建物であり今日は中を公開してくれた。



+



34番三念寺の六地藏

東京都水道歴史館

32番円満寺

三念寺の前が東京都水道歴史館である。江戸から東京までの時代の水道の歴史が克明にわかる資料館である。ここは東京都浄水施設の一部である。中を見たが既に10数回来ており展示品は変わらない。お土産にテッシュ一袋頂く。このカレンダーが素晴らしい多摩川の水の美しい場所が撮られ和やかなカレンダーである。再び本郷通りに戻る。通りに面して32番札所円満寺がある。京都仁和寺の末寺である。いつ来ても中には入れない。外から眺めて終わる。同じ道を戻り左に入る。日本サッカー協会を眺めながら28番札所霊雲寺に着く。今日廻る寺院の中で一番大きな境内を有する寺院である。真言宗霊雲派の総本山寺院である。柳沢吉保が帰依した寺院であり、5代将軍徳川綱吉も崇拜し100石の寺領を授与した寺院である。その上関八州の真言律宗の総本寺となった。



28番霊雲寺



湯島天神入口



上野公園しだれ桜

その後関東大地震、東京大空襲で全て焼失し戦後に再建された。真言律宗から独立し真言宗霊雲派総本山と称す。霊雲寺を出て湯島天神の裏側から切通坂を下る。左に曲がると不忍池に出る。丁度時間は昼食時となり【天久】という天麩羅屋で多くの仲間と昼食を食べた。値段も手ごろで海老も多く一同満足する。終わって集合場所へ向かう。上野公園入口のしだれ桜が満開であった。坂を上り左右の桜はまだ2分咲き程度である。それでも桜見物の人が溢れ活況を呈している。日本人とサクラは縁の切れない春の優雅な舞台である。公園中心部の噴水池が三分の一に減らされ広場が増えた。左右に喫茶店が出来た。上野公園には喫茶店は少なく足を休める絶好の場所である。東京芸術大学前を通る。今日は卒業式であり道路を挟んで校舎から多くの人が出入りしていた。谷中の墓地に入る。まずは入口に下町資料館が見えるその先を左に曲がる。感応寺の入り口に渋江抽斎墓所の表示がある。渋江抽斎は江戸末期の医師であり、考証学、書誌学者でもあった。



下町資料館



渋江抽斎墓所



53番自性院愛染堂

この人の蔵書数は35000冊あったと言われる学者であった。ただ金策や貸し出して未返却などあり多くの本が散逸した。森鷗外がこの人をモデルに小説を書いている。53番札所自性院に入る。本覚山寶光寺自性院という。愛染明王を祀る。川口松太郎作の愛染かつらはこの寺でヒントを得たという。本堂の前にあった桂の古木などから小説が生まれ大ヒットした。自性院を出て突き当り右に曲がると55番札所の長久院



55番長久院句碑



長久院の大師堂



韋駄天安置所

がある。元神田北町にあったのが慶安年間にこの地に移動した。境内には観音菩薩像と句碑があった。詳細不明。更にこの寺を出て進むと西光寺がある。門前に韋駄天安置所とあり、藤堂家、佐竹家祈願所と書かれている。藤堂高虎が朝鮮から韋駄天神を勧請し安置したのが始まりであり慶安年間にこの地に移る。佐竹家と藤堂家とが西光寺に力を入れて韋駄天神を祀った。この先から右へ路地に入る。ぐるりと回って広い道

に出で右角に49番多宝院がある。多宝院の手前に瑞輪寺があった。門前に江戸十大祖師安産飯匙の祖と書かれた表示がある。瑞輪寺は文永11年(1274)日達上人が東国行脚の際に武蔵国久米川のあたりで関善



49番多宝院



立原立造の墓



瑞輪寺安産飯匙祖師由来

右衛門宅で妻がお産で苦しんでおり、上人はその家の入り飯匙にご本尊したため産婦の痛がる場所にさするとたちまちに安産でき親子無事に出産できた。それに感激し一家一門その威光に入信して武州入間に善性寺を建立した。この為安産の寺として多くの人に崇信せられた。

49番札所の多宝院は宥純法印が開山した。神田北町からこの地移転した。境内には立原道造の墓がある。24歳で急逝した天才であり、詩人、建築家である。辰野賞3年連続受賞、中原中也受賞と活躍した。多宝院を出て反対側の道を下り観智院(63番札所)に入る。保育園を経営しており観音堂が左側に安置されている。



63番観智院観音堂



観智院火除不動尊



57番明王院入口

12時50分には明王院(57番札所)に入る。明王院は弁円法印が慶長16年(1611)に神田北町に開山した。慶安元年(1640)にはこの地に移転した。明王院を出て右に路地を入り突き当たりが64番加納院



57番明王院観音堂



64番加納院本堂



加納院宝塔印匡

に着く。加納院は尊慶が神田北町に開基した。延寶8年(1680)ご当地に移転した。境内には古い宝塔印匡があった。加納院を出て、観音寺(42番札所)へ向かった。赤穂浪士の密会場所の寺として著名である。

赤穂浪士の近松勘六行重と奥田貞右衛門がこの寺で第六世朝山大和尚と兄弟の関係で良く会合にこの寺を利用した。



まちかど賞土塀



42番観音寺



赤穂浪士供養

本堂の右側に義士の供養塔が鎮座している。

これで谷中の寺院は終わった。夕焼けだんだん坂で皆と別れた。日暮里駅まで歩く。途中に経王寺が左にある。門を眺めると戊申戦争の銃弾がま



経王寺山門



官軍による銃弾の跡

だ残っている。彰義隊は上野山での戦いに破れこの寺に籠った。官軍は構わず銃弾を門に打ち込んだ跡である。銃弾は指を入れて触れるとわかる。経王寺は要詮院日慶が開山。当地の豪農冠勝平が開基となる。明暦元年(1655)この地に創建された。本堂の隣に大黒天があり日蓮上人の作言われる。。ここを出て駅の手前にある本行寺に入る。本行寺は長久山と称す。大永六年(1526)太田道灌の孫太田資高が開基した寺と



本行寺山門



一茶の句碑



本行寺本堂

いわれる。その後神田、谷中と移転し寛永6年(1709)に当地に移る。景勝の地であったことで月見寺とも言われた。二十世日垣上人が多くの俳人と交遊があり小林一茶なども俳句を残す。【青い月の露をさかなにひとり酒】、境内には一茶の句(陽炎に道灌との物見塚)碑が、目立つ場所にある。午後1時50分には日暮里駅から浅草へ向かった。今日は日光の出版健保に宿泊し日光脇街道を歩くため前泊する。